

≪熊谷特別支援学校の活性化・特色化方針≫

種別	肢体不自由	学部・ 学科	小学部・中学部・高等部	R4.5.1 児童・ 生徒数	(男) 80 (女) 55	計 135
アクセス	秩父線大麻生駅より徒歩25分、明戸駅より徒歩20分					
<教育課程等>						
<p>本校の教育課程は心身の障害の状況や発達状況に応じて大きく4つに分けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 類型Ⅰ・・・当該学年の指導内容・指導目標に準ずる教育課程 ・ 類型Ⅱ・・・授業の遅れ、学習進度を考慮し下学年の指導内容・指導目標も含めた教育課程 ・ 類型Ⅲ・・・知的障害の特別支援学校の学習を参考にした教育課程 ・ 類型Ⅳ・・・自立活動の目標・指導の手だてが主となる教育課程 <p>※ 類型Ⅲ・Ⅳについても教科学習を大切にして授業を行っている。</p>						
<学校行事・部活動>						
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティースクールとして、交流及び共同学習等の機会において、地域と協働で児童生徒の学びと育ちを進める。(本年度3年目) ・ 地域の中学校の参加や福祉作業所、PTAなどの販売等の協力を得るとともに、児童生徒の日ごろの学習の成果を発表する場として夢祭(文化祭)を行っている。(本年度校内開催のみ計画、地域の中学校と作品展示で交流する予定) ・ 各学部やブロック種目、紅白に分かれての応援合戦、児童生徒が中心となつてのレクダンスや進行など、一人一人が輝く体育祭を実施している。 ・ 熊特スポーツクラブやイングリッシュクラブで放課後の余暇活動を充実させている。 						
<家庭・地域との連携>						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業公開、教育相談、学校見学は個別に実施している。 ・ 共生社会の形成を目指し、近隣の小中高等学校との交流及び共同学習を積極的に行っている ・ 「アートで築こう地域の輪」活動で児童生徒の作品をとおして地域とのつながりを大切にしている。 						
<進路>						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等部の卒業生については、福祉的就労等12名(就労継続B型2名、生活介護7名、施設入所2名、在宅1名)、就労1名、就労移行1名、進学1名である。 ・ 小学部・中学部の生徒は、それぞれ中学部・高等部へ進学。 						

2 育成方針(埼玉県立熊谷特別支援学校 ～児童生徒の成長物語～)



教育目標 かしこく 心豊かに たくましく

目指す学校像

児童生徒の障害特性や教育的ニーズを踏まえた最適な学びを進め、一人一人の良さや可能性を最大限に伸ばし、保護者・地域から信頼された学校

訪問教育部の目標

- 生き生きと明るい児童生徒
- 楽しく学習に取り組む児童生徒
- 心豊かな児童生徒を育てます。

小学部の目標

- 学んだことを生かせる子
- 友だちとなかよくできる子
- 最後までがんばる子を育てます。

中学部の目標

- 人の心を思いやり、自分らしく豊かに生活できる生徒
- 持てる力を発揮し、心身ともにたくましく生きる生徒を育てます。

高等部の目標

- 進んで学習し、よく考える生徒
- 社会的経験を広げ、人との関係を豊かにできる生徒
- 健康・安全に気をつけ、ねばり強く取り組む生徒
- 自律心を持ち、適切な進路実現のため努力する生徒を育てます。

自己実現

自立・社会参加

よさ・可能性の発揮

自己選択・自己決定

自信・意欲

体験・活躍する場

確かな学力

豊かな心

健やかな体

一人一人の障害の状況に応じた指導を行う時間「自立活動」に重点をおき、自立活動専任教員と担任が連携し、『こころとからだづくりの学習』に力を入れて取り組んでいます。

情報機器を有効活用するなど、ICT教育を推進しています。

一人一人のコミュニケーション意欲・手段が向上するよう支援しています。

見え方・聴こえ方に課題のある子への巡回相談や身体・摂食等に課題のある子への理学療法士・言語聴覚士による支援や相談を行っています。

卒業後、地域で生き生きと生活できるために、小学部段階からキャリア教育を行っています。

交流及び共同学習・通常学級支援籍・特別支援学校支援籍の取得を進めるなど、多様な学びの場を設定しています。

医療的な支援を必要とする子へ、医療・学校・保護者などが連携・協力し、医療的ケアを実施しています。

集団生活を通して社会生活を身につけ、基本的生活習慣等を確立するための寄宿舎を設置し、運営しています。